

仙台市総合計画審議会 第3回地域とくらし部会議事録

日 時	令和2年2月4日（火） 18:00～20:05
会 場	TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール2
出席委員	阿部一彦委員、阿部重樹委員、岩間友希委員、遠藤智栄委員、奥村誠委員、小岩孝子委員、今野彩子委員、佐々木綾子委員、佐藤和子委員、佐藤静委員、傳野貞雄委員、中坪千代委員 [12名]
欠席委員	折腹実己子委員、加藤和彦委員、永井幸夫委員、[3名]
仙 台 市 (事務局)	福田まちづくり政策局長、梅内まちづくり政策局次長、郷湖政策企画部長、松田政策企画課長、郷古地方分権・大都市制度担当課長、柳沢政策企画課主幹、千代谷政策企画課主幹
議 事	1 開会 2 議事 (1) 市民参画事業について (2) 基本計画の検討について (3) その他 3 閉会
配付資料	1 区民参画イベントの実施概要 2-1 仙台市基本計画検討資料 概要（修正版） 2-2 仙台市基本計画検討資料（修正版2） 参考資料 女性たちの政策提言（新総合計画に仙台の女性たちが声を届けるプロジェクト） 委員提出資料 東北大学公共政策大学院研究成果

1 開会

○郷湖政策企画部長

本日は、お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。定刻となりましたので、これより「地域とくらし部会」を始めさせていただきます。

それでは、部会長よろしくお願いたします。

○阿部一彦部会長

ただいまから「仙台市総合計画審議会 第3回地域とくらし部会」を開会いたします。議事に入る前に、定足数の確認などをお願いします。事務局から報告をお願いします。

○郷湖政策企画部長

本日は現時点で12名の委員の皆さま方にご出席をいただいております。定足数を満たしていることをご報告いたします。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。では次に、会議の公開・非公開の取り扱いですけれども、前回と同様、公開としたいと思いますが、皆さんよろしいでしょうか。

(了承)

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。それでは公開といたします。

続きまして、本日の議事録署名委員の指名でございますけれども、前回は佐藤和子委員にお願いしました。

今回は前回ご欠席だったのですけれども、小岩委員にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

(了承)

では小岩委員、お願いします。

事務局から資料などの確認をお願いしたいと思います。

○郷湖政策企画部長

お手元に座席表、次第、資料一覧、資料1、資料2-1、資料2-2を置かせていただいております。

それから、前回までの主要な資料を閉じた青いファイルを机の上に置かせていただいております。

また、本日の参考資料といたしまして、「新総合計画に仙台の女性たちが声を届けるプロジェクト」にてとりまとめました「女性たちの政策提言」を机の上に置かせていただいております。

さらに、委員提出資料といたしまして、「まちと活力部会」の飯島委員の研究室の学生の皆さんが総合計画の制度的、実証的研究について研究成果をまとめられたということで、資料のほうは提出されております。

資料は以上でございますが、不足などはございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。

それでは女性たちの政策提言と、飯島委員提出資料に関しまして、事務局から説明をお願いします。

○松田政策企画課長

まず、女性たちの政策提言からご説明しますので、下から3つ目に付けておりますこちらの参考資料をご覧ください。

表紙をおめくりください。1ページにございますように、こちらは仙台の女性たちの声

を集めた政策提言でございまして、策定された方々は下にメンバーとありますけれども、仙台市の外郭団体であります「せんだい男女共同参画財団」が主催する女性リーダープログラム、そしてまたさまざまな講座を受けました民間企業や団体で活躍されている女性の方々などが策定したものでございます。

昨年12月に市長が受け取ったものですが、この審議会でも共有を図るために本日、参考資料としてお付けしております。

概要ですが、5ページをお開きください。上段に基本理念として「わたしたちがこのまちを創っていく」ということが掲げられておりまして、策定されたご本人たちも一緒になって仙台のまちづくりを進めていくというような姿勢をこの基本理念に盛り込んでいるところでございます。

また、その下に具体的に7つの分野で目指す仙台の姿をまとめている部分がございます。1の「多様性・共生」の視点であるとか、2の「子育て・教育」を重視するという視点、また、「生涯を通じた学び」の観点など、現在進めておりますこの審議会の審議内容、そして方向性とも重なる部分が多いかと思っております。

6ページ以降は、それぞれの目指す都市の姿の実現に向けた政策の方向性、そして下には取り組みアイデアなどがまとめられておるところでございます。

また、もう1つ、提言をまとめるまでの検討プロセスや、出されましたさまざまなご意見もまとめられているものをこちらの報告書の別冊としてお付けしておりますので、後ほど高覧いただきたいと思います。

以上が、女性たちの政策提言についての説明となります。

続きまして、昨日、「まちと活力部会」で飯島委員からご説明がありました件について、こちらの部会でも共有させていただきたいと思っております。「飯島委員提出資料」と右上に書いております資料をご覧ください。

こちらですが、飯島委員がご担当されている東北大学の公共政策大学院のワークショップという授業の中で総合計画への提言をテーマに、7人の学生の方々が取り組んだ研究成果のご報告があったところでございます。概要としましては、仙台市が迎える人口減少に対する危機感を問題意識としまして、総合計画の合意形成、そして実効性の確保について主に研究をしたものとなっております。

具体的にはパワーポイントのページを小さく付しておりますけれども、6番のパワーポイントをご覧いただきたいと思います。「総合計画の実効性を担保するために」として、「市民と行政の合意に基づいた総合計画の策定」が必要としつつ、一方で「全市的な合意形成は難しい」ということで、より身近な地域に着目し、まとめたのが政策提言の柱ということとなっております。

具体的にはその左下、7のパワーポイントに提言の全体像のイメージが書かれておりますけれども、真ん中に区民と行政による組織を想定しております「区のみらい委員会」を置きまして、区別計画の策定や実施、振り返りを一貫して行うというものでございます。

また、右側の「地区運営会議」が区別計画の実施にも関わり、こういった区民主体のバックボーン組織がうまく機能するように、左側に区役所の機能を強化するというような体制というか仕組みを掲げているものでございます。

全体としては、研究成果ということにはなりますが、総合計画をテーマにした取り組みということでございますので、共有させていただきたいと思っております。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。さまざまな方からご指摘をいただいたり、提言していただいたりということは、私たちのこれからの審議の参考にもなってありがたいことだと思います。

2 議事

(1) 市民参画事業について

○阿部一彦部会長

それでは議事に入りたいと思っております。

議事の第1です。「市民参画事業について」、事務局より説明をお願いします。

○松田政策企画課長

資料1をご覧くださいと思います。資料1、区民参画イベントの実施概要でございますけれども、こちらは区別計画の策定に向けまして、昨年度に引き続き、今年度も区ごとに区民参画イベントを行いまして、区民の方々の意見を聴取するものでございます。

すでに実施済みとしましては、若林区、宮城野区、泉区の3区。こちらが終了しているところでございまして、当日は若い世代の方々にも多く参画をいただきまして、区の将来像、そしてまた必要な取り組みなどについてワークショップを行ったところでございます。

若林区では、この審議会でも議論しております4つの都市個性ごとに若林区の将来像を描いたところでございまして、宮城野区では、参加者が考える宮城野区の将来イメージを、それぞれ絵に描きまして宮城野区の大きな地図に貼り付けていくなど、これまでになく取り組みをしたところでございます。また、泉区につきましては、泉区の特色も踏まえながら、目指すまちづくりの方向性についてワークショップで議論を深めたところでございます。

青葉区と太白区につきましては、それぞれ2月の9日、16日に実施する予定となっております。こちらの各区でのイベントで出されました意見等につきましては、今現在、各区で作成しております区別計画の叩き台にも可能な限り反映していくということでございます。

5区の報告書がまとまり次第、改めて詳細をご報告したいと思います。

○阿部一彦部会長

ありがとうございました。ファシリテーターとしてご参加された委員の皆さま、本当にどうもありがとうございました。

若林区でファシリテーターをされました岩間委員から、感想などをお願いしたいと思います。

○岩間友希委員

若林区でファシリテーターを榊原委員と一緒に行いました岩間です。ファシリテーターである私もすごく楽しんでしまうようなイベントになりました。テーブルのコーディネーターは有志の大学生で、参加した方も中高生、中には小学生という若い世代でテーブルを固め、それ以上の年齢の方はJテーブルに集まっていただくというやり方で進めました。

全体的に満足度がすごく高かったのも嬉しかったですし、会の終了後には高校生の子が個別に話しかけてくれまして、「まちづくりは縁が遠いものだと思っていたけれども、すごく身近になった。またこういう会があったら参加したいと思いました」といったコメントを個別にもらいました。それだけ満足度が高かったのが嬉しかったです。

アンケートを振り返りますと、目立ったのは「難しかったけど、すごく楽しかった」、「他の学校との交流を図る機会があまりないので、その機会があっただけでもすごく楽しかった」、あとは「継続してほしい」というご意見。「区別計画ができ上がった後も継続してほしい」といったご意見がちらほらと見受けられました。

進め方としては、環境、共生、学び、活力を「それぞれ若林区とかけるならば」ということで、まずは若林区らしさを付箋で出していただきました。そのうえで皆さんの付箋を全体的かつ客観的に眺めてもらい、各テーブルでどのテーマを深掘りするかを決め、具体的なアクションを書いてもらうという形にしました。

傾向としては環境と活力への関心がすごく高かったです。「中高生はそうなるのか」と面白くて。付箋の数を見れば一目瞭然なのですけれど、環境と活力が多く、その次に学び、そして共生と付箋の数がだんだん下がっていく傾向がありました。これは裏返すと、環境や活力については区民の方の関心も高いし、想起がしやすいのだろうと。先ほどの東北大学の区別計画で「区民の意見を収集していくことは大事」というご意見がありましたけれども、そういう特定のテーマについては、具体的なアクションなども出やすいのかと思っています。

一方で、関心が薄いというよりは、おそらく想起しづらい、共生や学びについては、専門家の目線も強く入れながらつくっていくのがいいのかと思ったのが全体的な感想です。

○阿部一彦部会長

どうもありがとうございます。

それでは、先ほどの事務局の説明、そして今の岩間委員のお話も含めて、委員の皆さまから確認や質問などがありましたらいただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。まず進めさせていただいて、よろしいでしょうか。

若い人たちの声ということも含めて、多くの方々がまちづくりに関心を持っていただく、身近に関心を持っていただくということはすごく大事なことだと思えました。

今後策定を進めていく区別計画に貴重なご意見を生かしていただければと思います。

(2) 基本計画の検討について

○阿部一彦部会長

それでは次に議事の第2です。「基本計画の検討について」。事務局より説明願います。

○松田政策企画課長

資料2-1と資料2-2についてご説明します。こちらは、前回のこの部会でお示しした基本計画のこの検討資料に前回いただいた意見を反映・修正したものとなっております。

資料2-2がいわゆる本体でして、資料2-1はその概要をまとめたものでございます。

まず、主な修正点についてご説明させていただきたいと思いますが、第2回の「まちと活力部会」で出されたご意見で修正した箇所もありますので、そちらの共有も図りながらご説明をさせていただきたいと思います。

資料2-1をご覧いただきたいと思いますが、最初に、前回からの修正点で大きなところでは、「まちと活力部会」における委員からの提案で、まちづくりの理念に掲げている「挑戦を続ける、新たな杜の都へ」という理念。こちらをもう少し明確にということで、「The Greenest City」というものを提案していただいたことが一番大きなところでございました。このご提案につきましては、前回のこの部会でも賛同を得られましたことから、本日資料に盛り込んでいるところでございます。

資料2-1の中では、左上のまちづくりの理念の副題として「For “The Greenest City” Sendai」、こちらを掲げるとともに、下に目指す都市の姿が4つありますけれども、それぞれグリーンに4つの意味を持たせて、都市像と関連づけているところでございます。

また、右側には8つの重点プロジェクトを掲載しております。前回お示しした資料では、6つのプロジェクトでありましたが、そのうちの2つのプロジェクトをさらに分割して、合計で8つということで本日お示しさせていただいております。

具体的にご説明しますと、前回は「みんなでつくる地域未来プロジェクト」がありました。これは、多様性を生かしながら地域で支え合い、また住民や企業など、さまざまな方々が関わって地域づくりを進めていくというプロジェクトでございましたが、このプロジェクトにつきまして、前回この地域に着目したプロジェクトは支え合いという守りの視点と、地域づくりというより積極的な、いわゆる攻めの視点とに分けてはどうかというご意見をいただいたところでございまして、プロジェクトを2つに分けまして、資料2-1でいうところの「心の伴走プロジェクト」、そして「地域協働プロジェクト」に分けたところでございます。

また、もう1つの「まちと活力部会」におきましても、同趣旨のご意見がありました。「防災環境都市」の掲げ方につきまして、具体的には仙台の防災力の向上・発信に取り組んでいくということは重要だけれども、一方でこれまで育ててきた杜の都の美しく快適な自然環境、これを今回の総合計画でさらに打ち出すのであれば、プロジェクトにおいては防災と環境を個別に扱って、それぞれの取り組みをしっかりと打ち出す方がいいのではないかとございまして、前回ありました「未来へつなぐ防災環境プロジェクト」も2つに分けまして、一番上の「杜と海の都プロジェクト」、これは自然と調和した都市空間づくりを中心としたものでございまして、もう1つがその下の「防災環境都市プロジェクト」。これは災害への対応や、持続可能な都市基盤の確立を目指すというプロジェクト。この2つに分けたところでございます。6つのプロジェクトを今回8つに分けてお示しをさせていただいているところでございます。

以上が前回の部会で出されました大きなご意見と、それに伴う資料の大きな修正点でご

ざいます。

続きまして資料2-2をご覧ください。まず、2ページをお開きください。2ページ中段にまちづくりの理念の部分がありますが、前回の資料では「先の見えない時代に突入した」という表現がありましたが、これはちょっとネガティブ、不安を感じる表現ではないかといったご意見、そしてまた「揺らぐことのない確かな理念」という表現には柔軟さがほしいといったご意見をいただきましたので、今回その部分を削除・修正しておるところでございます。

次に6ページをお開きください。先ほどご説明しましたように、「For “The Greenest City” Sendai」、これを理念の副題に追記いたしまして、またこちらの説明につきましても、最後の段落、「持続可能な未来へ」のところになりますが、「Green」に豊かな意味を込め、世界を見据えて常に高みを目指す、新たな杜の都をつくっていくというような補足の説明をこちらの方に盛り込んでおります。

続いて7ページからは4つの都市個性と、それに立脚する都市像をお示ししているページでございます。それぞれの都市像に関連する「Green」のイメージとして、一番下の箱になりますけれども、都市個性の環境には「Nature」、そして共生には「心地よさ」という意味を添えています。

なお、以前に佐藤静委員から「命と心を守り育てる」という大切な視点についてのご提案がありまして、また、関連するご意見として「まちと活力部会」でも、この「Green」のイメージ、意味づけを議論している中では、心の豊かさ、優しさというイメージもこの「Green」にはあるだろう」という意見もありましたので、そういった意味もこちらの共生、心地よさの中に込めているところでございます。

続いて9ページの学びには「成長」、そして活力には「進め！（青信号）」という、それぞれの「Green」の意味を添えているところでございます。

11ページをお開きください。こちらは4つの都市個性を強みとして、掛け合わせながら、目指す「Greenest City Sendai」の実現に向けて取り組んでいくという概念図でございます。

12ページからは、都市像の実現に向けて取り組む8つの重点プロジェクトをお示しているところでございますが、それぞれの8つのプロジェクトがいわゆる「Greenest City」を目指して、それぞれ関連しあって動いていくということの概念を、この中段のイメージ図でお示しをしているところでございます。

続いて13ページからがそれぞれのプロジェクトになっております。見開き2ページを1セットでまとめております。それぞれ目標と、その下に現状、課題を示すデータ、そして右側に施策の方向性をお示ししております。

修正点としましては、まずそれぞれのプロジェクトに4つの関連するデータをお示ししておりますが、前回では「この実施の方向性と関連性が薄いデータもあるのではないか」「もう少し実施の方向性を意味づけるデータの方がいいのではないか」というご意見をいただきましたので、改めてデータを全面的に見直しまして、関連性の深いデータに差し替えているところでございます。これは8つのプロジェクトすべて見直しを行いました。

また、右側の実施の方向性につきましては、「まちと活力部会」でのご意見も踏まえて

修正した部分がありますので、経過を共有させていただきたいと思います。前回お示した資料では、例えば14ページの実施の方向性のそれぞれの取り組みの見出しのところ、「防災環境×〇〇」、例えば「防災環境×人」であるとか、「×まち」であるような見出しを付けておりましたけれども、「まちと活力部会」におきましては、各プロジェクトの掛け算の要素に「重複が多いのではない」「掛け算の意味が少し分かりづらくなっているのではない」というようなご意見をいただいたところでございます。

その後、事務局内でも検討しまして、いわゆる都市個性、強みを掛け合わせていくという姿勢がそもそもの議論であったというところに立ち返りまして、「プロジェクトごとに主な都市個性の掛け算をお示した方がいいのではない」ということで、例えば「杜と海の都プロジェクト」では13ページの上にありますように、4つの強み、都市個性のうち、ここは主に環境と活力を掛け合わせて施策ができる場所だろうと、プロジェクトごとに大きな掛け算をお示しているところでございます。

次に、個々のプロジェクトについて概要をご説明いたします。13ページが「杜と海の都プロジェクト」としまして、右側の実施の方向性になりますけれども、杜の都の象徴的な都市空間、そして「みどり」に親しめる空間づくり、また、海岸公園や広瀬川など、楽しめる水辺の空間づくりについてまとめているのが、このプロジェクトになっております。

続いて15ページが「防災環境都市プロジェクト」でございます。こちらは、エネルギー負荷の軽減、そして持続可能な資源循環と都市インフラづくり、またグリーンインフラの観点からの防災・減災の推進、そして世界への発信についてまとめているのが、このプロジェクトになっております。

続いて17ページが「心の伴走プロジェクト」でございます。こちらは多様性が尊重される環境づくりや、孤立せず、つながる仕組みづくりとしまして、前回ご意見がありました引きこもり対策、そしてひとり親家庭の支援も含めた配慮を要する家庭と、つながり・支える仕組みづくりについて主にまとめたところでございます。

また、03の心を支える環境づくりとしましては、いじめ防止や貧困家庭の子どもの居場所づくりなどをまとめているところでございます。「命と心を守り育てる」という視点に最も関連性が深いプロジェクトとなっております。

続いて19ページからが「地域協働プロジェクト」。掛け合わせますのは、「共生×活力」ということになります。こちらは多様性を力に変える地域づくりを目標にしまして、多様な協働の仕組みづくりや、若者のチャレンジの機会づくり、また企業の力を生かした地域づくりなどについてまとめているプロジェクトでございます。

続いて21ページ。こちらが「笑顔咲く子どもプロジェクト」でございます。「学び×共生」を主に掛け合わせているところでございます。こちらは子どもの未来が広がる育ちの環境づくりを目標としまして、実施の方向性として、意欲を引き出す教育環境、この中にはグローバル化や、情報化社会の適応、そしてまた職業体験などを含めた職業観の醸成などを盛り込んでいるところでございます。

その下の個性に合わせた成長環境づくりには、多様性を認め合う教育環境、そしてまた

選択肢のある学びの環境づくり、その下の子育てを楽しむ社会環境づくりには、子育てサポートや、子育てが楽しめる、いわゆる遊び場のような、まちなかの魅力づくりや公園の利活用などをまとめているものがございます。

続いて23ページが「ライフデザインプロジェクト」。掛け合わせるのは「学び×活力」の都市個性となっております。こちらは生涯を通じて自分らしく学び、働き、楽しめる環境づくりを目標としまして、まちなかに学びの機会が増える環境づくり、そして多様な働き方の促進、また民間企業のノウハウや、ICTを活用した健康に関する取り組みなどをまとめているところでございます。

続いて25ページからは、「TOHOKU チャレンジプロジェクト」としまして、こちらは「活力×学び」を掛け合わせております。世界と東北を視野に、競争力のあるビジネス環境づくりを目標としまして、実施の方向性として、次世代放射光施設整備を見据えたりサーチコンプレックスなど、イノベーションを生み出す取り組み、また、地域経済を牽引する企業の輩出や、農食ビジネスの推進など、仙台・東北の産業を支える取り組み、そして仙台・東北に多くの人を呼び込む観光施策もこちらのプロジェクトの中に入ってきます。

最後、8つ目のプロジェクトが27ページ、「都心創生プロジェクト」でございまして、掛け合わせるのは「活力×学び」となっております。現在仙台市で進めております仙台都心再構築プロジェクトのうち、主にビジネス環境の整備、そして、まちなかのリノベーションによる新しい賑わいの創出について主にまとめているのがこちらのプロジェクトとなっております。

続いて29ページからは前回同様、「分野別施策一覧」としまして、各施策を網羅的に盛り込んで、分野ごとにお示しをしている部分でございます。こちらは内容には大きな変更はございません。

続いて39ページからが「区別計画」。こちらは今、5区それぞれ叩き台を作成しているところでございますので、できましたらこちらの方に続けて掲載を予定しております。

その下に「総合計画の着実な推進」が続く、ということになっております。この総合計画の推進につきましては、行政運営の姿勢として、いわゆる大都市としての視点、また地域の視点の両方を重視していくということを掲げております。

また40ページにおきましては、「持続可能な行政運営」として、いわゆる財政運営、人材育成など、仙台市として大切にしていこうとする姿勢をまとめておるところでございます。

この部分につきましては、前段の8つのプロジェクトを進めていく「私たち」とは少しトーンが異なりまして、いわゆる行政機関の仙台市としての姿勢を掲載しているものがございますけれども、仙台市役所としては本庁舎の建て替えなども今進めているところでございまして、そのことも市役所が時代に沿って変わっていくということを考える1つの契機として捉えたいと思っているところでございますので、こちらを改めて仙台市役所の姿勢ということで掲載させていただきたいと考えているところでございます。

○阿部一彦部会長

どうもありがとうございました。これまでの皆さまのご意見を踏まえて、修正した点などについて説明いただきました。

それでは、意見交換に入ります。いつものように8時が目安になっていますので、進めさせていただきます。

前回の「まちと活力部会」では、竹川委員から目指す都市の姿として「“The Greenest City” Sendai をつくる」というご提案をいただきました。竹川委員のご提案に対して引き続き議論を進めるということで、2つの部会とも一致し、前回の部会の後に奥村会長からのご了解もいただきましたので、今回事務局から修正案をこのように示していただきました。

今回の部会では、前回から大きく変更となりました、「Ⅱ 新たな杜の都に向けて」と、「Ⅲ 重点プロジェクト」について集中的に皆さまのご審議をいただきたいと思います。これまで同様に、まずは資料の章立てごとにパートで区切り、皆さまの意見をいただくという形で審議を進めたいと思います。

まず、「Ⅰ はじめに」でございます。「Ⅰ はじめに」は、都合により5分程度というのが一応の目安です。資料の1ページから4ページです。この章は計画の対象とする部分が2の「『私たち』とは」に置き換えられまして、「私たちとは誰を指すのか」を明確にし、「居住する人」を中心とした説明に変わったことと、「先の見えない時代」という表現についてご指摘いただきましたので削除された程度で、それ以外はあまり大幅には変わっておりません。ここは先ほど言いましたけれども、あまり時間をかけられないところでございますけれども、皆さんのご意見をいただきたいと思います。「Ⅰ はじめに」についていかがでしょうか。

「時間かけられない」と言ってしまったけれども、必要なことは発言していただいたほうが良いと思います。よろしく願いいたします。

よろしいですか。何か急かしたようになってしまい、すみません。

次のパート、「Ⅱ 新たな杜の都に向けて」です。資料の6ページから11ページまでです。この部分は、まちづくりの理念の副題に「“The Greenest City”」が記載されたことと、4つの都市個性による目指す都市の姿にもグリーンの要素が加わったこと、また、それらが11ページの概念図として分かりやすくイラストにしてあるところが大きな修正点となっています。

これにつきましては、7時までを一応最大限の目安として進めさせていただきます。でもこれは目安ですので、また議論によっては変わってくると思います。

では皆さん、ご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。6ページから11ページです。

今野彩子委員、お願いします。

○今野彩子委員

議論の本筋から外れた話にはなるのですが、11ページの概念図です。前回からまちづくりの理念の副題に「“The Greenest City” Sendai」が入ったことによって思ったのですが、この概念図自体を見直すということがあってもいいのかなと思いました。

「Greenest」という最上位の表現が入っているので、「我々は高いところを目指して行く」という、「今よりちょっと違うステージに行く」「挑戦を続ける」という意思のような

ところが非常にはっきり出てきたと思うのですけれども、そのうえでこの図を見た時に、優しさのほうが非常に立っているというか。あまりうまく言えないのですが、でもビジュアルとして、目指すところは「大きくて高い」ということを強く表現してもいいと思いました。もう少し洗練されていてもいいと言えればいいのかもしれませんが。

あと、右の12ページのイラストとの関連性も少し整理すればいいと思いました。以上です。

○阿部一彦部会長

今野彩子委員、「こうしたらいい」というご意見が何かありましたら。

○今野彩子委員

もう少し具体的にビジュアル化してもいいと思いました。右の図は4つの都市個性が同じ形で関わり合っているという関連性が分かりやすいと思いますけれども、環境がベースにあるという右の図がイメージに近いと思います。ビジュアル化の時に参考にしていただければと思いました。

○阿部一彦部会長

今野彩子委員、ありがとうございました。

ただいまの今野彩子委員の「ビジュアル化がアピールできるように」というようなことに関しまして、委員の皆さまからご意見などがあればいただきたいと思います。

佐々木委員、お願いします。

○佐々木綾子委員

最後に私も言おうと思っていた部分だったので、付け加えさせていただきます。今野彩子委員がおっしゃってくださったように、もう少し分かりやすく前向きにチャレンジできるようなビジュアルがいいと思ったのがまず1点です。

あと、できるかできないかは分かりませんが、デザイン性といいますか、若い方でもこれを見てワクワクするようなビジュアルがいいと思っております。

せつかく活力、学び、共生、環境が混じり合っているのがとても粋なのですが、交わっているところが、いろいろな色が混ざっているのが「もっときれいに映えるといいな」みたいな勝手な意見なのですが、そういったデザイン性といったところが、できるかできないかというところはあるかと思うのですが、デザイナーさんをお願いしてもいいと勝手に思っておりました。すみません、勝手なことを言いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。ほかの委員の方で「こうしたらいいのではないか」ということがあれば、ありがたいと思いますけれども、いかがですか。

お願いします。奥村委員。

○奥村誠委員

あえてというか、私は別にこの 11 ページの 4 つの都市個性の円の図が好きで、ほかに変えてはいけないと思っているわけではないのですが、でもたぶん、これは関係が分かりやすく、例えば 12 ページにある図がこの下半分に置き換わったとします。本当にそうなのかと。例えば環境と活力は離して描いてあるけども、本当は近いアイデアもあるのかもしれないと思ったりすると、あまり固定化しないほうが良いという気もしているのです。

それで、「勝手に見てください」というほうがむしろいいと思っています。ビジュアル化していただくのはいいのだけど、丸ではなくて扁平でもいいのですが、私としては自由に見てもらえるほうが嬉しいと思っています。1 つの意見です。

○阿部一彦部会長

奥村委員からの意見がありました。これはとても大事なことです。委員の皆さま、いかがでしょうか。

市民の方々にイメージしてもらう時に、とても大事な図なのだと思いますけども、これについて皆さんのご意見を踏まえたうえで、事務局が考えるということになるのかと思います。委員の方々からご意見をいただいたほうが良いと思うのですけれども、いかがでしょうか。

岩間委員、お願いします。

○岩間友希委員

デザインのことが入ってくると、難しい議論になってしまうのですが、私自身はこの 11 ページの図でも分かりやすいと思っています。ただ、この図と文字の説明が一致していればいいのかと。この図を文字で説明する一文が一番下にでも付いているだけでも違うと思っています。

たぶん、4 つの円が重なっている有機的な部分が挑戦なのかな？と思うのですが、そういう「?マーク」が絵によって想起されてしまうと、イメージが分散してしまうと思います。

活力などから想起するイメージは人それぞれでいいと思うのですが、「全体的に目指すのは、この 4 つが有機的に絡んでいる方向性です」ということが文字で書いてあるだけでも違うのかなと思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。委員の皆さま、どうでしょうか。

今野彩子委員、お願いします。

○今野彩子委員

言い方が悪かったのですが、関係性を見せていくというところを言いたかったのでなくて、「新たな杜の都を目指す」という意思みたいなところを「ビジュアル的に表現

したらどうか」というところを一番言いたかったので、デザインの、どちらかという、トーンの問題だと思います。分かりにくくて申し訳ありませんでした。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。皆さん、いかがでしょうか。
お願いします。小岩委員。

○小岩孝子委員

前回お休みさせてもらったこともあって、分からない部分なのですが、12ページの「“The Greenest City” Sendai」の図では、活力と学びと、共生と環境とあるのですが、これはプロジェクトのところに書いてある、例えば3だったら「心の伴走プロジェクト」の「共生×学び」という掛け合わせの部分を表しているのでしょうか。

「そういうことを表しているものなのでしょうか」というのが質問で、3の「共生×学び」はいいとして、その後の4の「共生×活力」とありますが、共生と活力の掛け合わせの矢印は12ページの図のどこにあるのかと思ったので質問しました。

見やすさとしては、11ページのほうがつながっていて、「これからみんなでやる」という真ん中の頂点の部分が大切なことだとパッと見てわかるのです。

12ページに矢印がないところがあったので、どうなのだろうと思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。12ページ以降は重点プロジェクトとしてもっと時間を取って検討はするのですが、この図ということでは関連があるからということの確認だったと思います。

ただいまの意見をいただいて、次の提案をする時に確認しておくべきことがあったらお願いしたいと思うのですが、

○松田政策企画課長

ただいまいただきましたご意見としては大きく2つあるかと思います。1つはこの11ページの図は、ビジュアルというかトーンについて、あくまで仮置きです。新年度に入りまして予算が認められれば、いわゆる冊子をつくっていく事業者さんもできますし、ほかのイラストもいろいろ入ってくる場合には、やはりトーンを合わせることもあると思います。その中で今ご指摘のあった、「挑戦」とフワッとした感がたぶん合わないだろうというところがありますので、最終的にはこの理念に少しでも近づけるようにイラストのほうの改良を重ねていきたいと思います。基本的なコンセプトは変えないのですけれども、イラストのトーンというところでは1つ変えていかななくてはいけないと思っております。

もう1つは、この右側の12ページの8つのプロジェクトの関連性を示した図ですが、たしかにちょっと分かりづらいところがあります。それぞれの4つの都市個性のところに小さくプロジェクト①、②と書いておりますけれども、これはそのプロジェクトの主な都市個性を生かす、それがどこなのかというところを書いているのですが、掛け算を示すのは

なかなか難しかったところです。

実際には先ほどご説明したように、それぞれのプロジェクトごとに大きく関わる強みについて掛け算で2つずつ出して掛け合わせていますけども、それがこの図では掛け合わされていないので、かえって分かりづらくなっているのではないかというのが、小岩委員からのご指摘かと受け止めております。

12 ページの図は、残すかどうかも含めて検討させていただくとともに、11 ページのイラストについては、いただいたご意見を踏まえて、次回すぐにビジュアルを高められるかというところはあると思いますが、今後作り込んでいく中で、きちんと対応していきたいと思っております。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。委員の皆さま、そのような方向でまずは案というか、やがてはもっときれいな印刷になってくるかもしれないかもしれませんが、そのような方向を確認したということでもよろしいでしょうか。

その他、この「新たな杜の都に向けて」というところ、6 ページから 11 ページの間で皆さまからご意見や確認があったらいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。次の重点プロジェクトが今日、最も時間を使って検討していただきたいところです。また元に戻るということがあるかもしれませんが、「Ⅲ 重点プロジェクト」に移らせていただきます。

資料の 12 ページから 28 ページです。説明いただいたことですが、前回まではプロジェクトの数が 6 つでしたが、4 つの都市個性に関連する主なプロジェクトがそれぞれ 2 つずつということで、合計で 8 つのプロジェクトになっております。

また、先ほど話題にもなりましたが、8 つのプロジェクトの関係性が 12 ページで説明されています。この図については検討ということでもありますが、さて、今回の部会では特にこの重点プロジェクトを集中的にご審議いただきたいということで、具体の取り組みに向けたご意見をいただきたいと思っております。

この 8 つのうち、当部会の所管は、「3 心の伴走プロジェクト」、「4 地域協働プロジェクト」、「5 笑顔咲く子どもプロジェクト」、「6 ライフデザインプロジェクト」の 4 つのプロジェクトです。最初に、この 4 つのプロジェクトを中心に、7 時 30 分か 35 分まで、ここで一番時間を使っていただいて、ご意見をいただきたいと思っております。

そして、残った時間は他の部会のプロジェクトについて皆さんからご意見をいただきたいということで、まずは私たちが主として関わる 3、4、5、6 について、ご意見を願いたいと思います。いかがでしょうか。

奥村委員、お願いします。

○奥村誠委員

すみません、議論の前提を覆してしまうようなことを最初に申し上げてもいいでしょうか。先ほどの絵のところとも本当は絡むのですが、4 つの掛け合わせみたいなことを表現しようとする、実は平面だと先ほどの 11 ページの図にある 4 つの円を重ねるような

図にしかないのです。立体で考えると、平面の正三角形の上に正三角形を3つ立てて頂点を合わせると、正四面体ができます。その正四面体の4つの面を都市個性として、それぞれの2つの面が接する辺を都市個性の掛け合わせとすると6つの組み合わせができるのです。

今はプロジェクトが8つありますが、実は最後の方を見ると、全部、活力と学びの掛け合わせです。6は学びと活力、7は活力と学び、8も活力と学びなのです。それで、全体の方が気になる会長の身の上としては、4つの都市個性を2つずつ組み合わせると6つの組み合わせができるので、プロジェクトは8つではなくて、6つにしてもらおうとの方がきれいだという話なのです。そういうふうにならないかと思っていまして、そうすると例えば防災環境などは共生というよりは、実は学びなのではないかと。環境と学びのほうが強いのではないかと。

そういうふうにして何かを付け替えると、6つで2つずつのつながりがカバーできていかなというふうに、ここ2、3日資料見ながら考えていたところです。

議論の前提を崩してしまうので、そういうことを考えていることもあるということだけをお伝えして、そうしてほしいというわけではまだありません。

私もまとまっていませんので、部会長がおっしゃったように進めていただいて結構でございます。

○阿部一彦部会長

大事な意見に関しましては、委員の皆さまからもご意見をいただきながらと思っております。

今、奥村委員からもお話がありましたけども、事務局から何かありますか。ちょっと大変なのかもしれませんけど。

○奥村誠委員

困ってしまいますね。すみません。後で。

○松田政策企画課長

現時点では、前回のご意見を踏まえて6つを8つにしたところがございますので、もしこれを6つに戻したらどういう組み合わせがあるのか、というところを改めて考えなければならず、現時点ではなかなか明確なお答えはしかねるところでございます。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。

遠藤智栄部会長代行、お願いします。

○遠藤智栄部会長代行

今、奥村委員におっしゃっていただいたところに関連して、私も「都市個性の掛け合わせがこの2つなのかな」とかいろいろ考えながら拝見していたところもございます。2つ

にするから違和感が残るというか、3つでもいいのかなとか。掛け合わせは別に2つである必要はないので、3つでもいいのかなと。そうなると、掛け算の表記はかえってなくてもいいのかなとか。

○阿部一彦部会長

今のご意見、委員の皆さま、いかがでしょうか。
佐藤静委員、お願いします。

○佐藤静委員

私は無理に整合性を追求する必要はあまりなくて、8つに分けていただいて分かりやすくなったという気はします。

○阿部一彦部会長

8つになって分かりやすくなったというご意見。いろいろな委員の皆さまからご意見をいただいてまた考えていくということですので、委員の皆さん、お考えや確認を発信していただくとありがたいのですが、いかがでしょうか。
岩間委員、お願いします。

○岩間友希委員

私自身も8つでそんなに違和感はなく、むしろ違和感があるのは12ページの図です。一生懸命に絵をつくってくれたのだと思うのですが、この絵があるから逆に「?マーク」が出てしまうので、この絵はカットして、むしろ先ほどお伝えしたように、「掛け合わせる」ということが伝わるといいと思いました。

○阿部一彦部会長

ご意見ありがとうございます。皆さまからご意見をいただいたほうがよろしいと思います。いかがでしょうか。
佐藤和子委員、お願いします。

○佐藤和子委員

私もこの重点プロジェクトの8つというのは、分かりやすくいいかなと。12ページの図は、やはり今お話があった通り、少し分かりにくいと思いますので、これは検討かカットをしていただければと思うのです。

もう1つは追加というか、この12ページで思っているのは、SDGsのことです。今、SDGsは、国または地方自治体、民間、さまざまな皆さんと連携をして、この17の目標に向かって頑張っていきたいと思いますと言っている時ですし、この仙台市の総合計画も2030年に被りますので、理念、目標としてもっと市民にアピールするためにも、もう少しSDGsのスペースを大きく取ったらどうかと思ったのです。

17のアイコンも、すごく小さいので、次のページの「この方向性はこのSDGsに関連し

ていますよ」というところはいいですけども、最初のページはもう少しスペースを大きくしたらどうかと思ったのです。

結局は市民一人一人ができること、そしてその行動が1つの原動力になっていくということを、またSDGsのことも浸透させるためにも、スペースをもう少し大きくして、それも踏まえて仙台市としては総合計画をつくっているのだということをもっとアピールしてつくられたらどうか。この12ページの部分では感じました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。まずはこのSDGsの17のアイコン、このままだと小さくて分からないので、これを大きくするというのと、それからSDGsの扱い方ということについては、皆さまとも議論をしたところもあったように思いますけれども、このことについてどうですか。

17のアイコンがちょっと読みづらいというのがあります。大事な考え方だということもありますし、ただ、今私たちの中で17すべてをやっていくのか、どうなのかというのがあるのかな。中坪委員、お願いします。

○中坪千代委員

たぶん視覚の問題もあると思うのですが、11ページの4つのリングがすべて交わっているという時点で、あえて「環境×活力」など、このように表記する必要はなく、すべてのプロジェクトに4つの都市個性がリンクする、でいいのではないかと思うのです。

たぶん先ほど議論なされていた11ページの図の個々の感じ方や捉え方の問題でもあると思うのですが、見出しの部分に「環境×活力」「環境×共生」というものをこちらから提示するのではなく、すべて4つがリンクしているものだと思うので、先ほど遠藤智栄部会長代行がおっしゃったように3つでも4つでもいいと思うのです。

であれば、いったんここを消してしまっただけで、例えばSDGsを強調するのであれば、このアイコンを見出しの部分の横に付けると、見るほうにしてみれば「こういう関係性があるのだな」というふうに捉えやすいかなと思うのです。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。あえて掛け算ということで書かなくてもいいのではないのかというご意見と、それから先ほどの奥村委員の話は、その図を正四面体にしたほうがきれいに見えるということなのだけでも、それもあまり掛け算を強調しなければよろしいのですよね。

どうなのでしょう。この辺は。

○奥村誠委員

私も今お話を聞いていて、無理に掛け算と書かないのだったら、わざわざそういうふうにしなくてもいいと思いますので、それについては結構だと思うのです。

ただ、「重点的に進めます」というのが8個もあって多いのではないかという思いは少

しあるのです。先ほどの「図を変えたほうがいいのか」は、むしろ正四面体にしてしまうと、2つずつというのは表しやすいのですが、一方で掛け合わせているという感じが難しくなるので、今のままでも、基本的には円が重なっているほうが分かりやすいと思いますので、図の話は結構です。

ただ、8つでいいかどうかは、「8つは多く見えないか」ということは少し気になっています。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。「8つは多く見えないか」という今の問いかけに関して、先ほどは8つでいいという意見もありましたけども、ここはとても大事なことだと思いますので、その辺について皆さんから意見をいただきたいと思います。

「重点プロジェクトが8つというのはどうか」という奥村委員の意見もありましたけども、一方で「8つでいい」という意見もありました。

傳野委員、お願いします。

○傳野貞雄委員

私は少ないかなと思っていたのですが、いろいろお話を聞いて、皆さんのお話ごもつともだなと思いました。今、中国のコロナウイルスで騒がれている世の中ですが、この先のこと全然触れられていない。医学的な難しい部分ではなくて、対応や体制について文言が入らないのかなと思いました。

余計なことを言ったかなと思っているのですが、今、緊迫したニュースが入っている時に、これから先、仙台市はどのように対応するのだろうかということについて安心感を与えるような部分があってもいいのかなと感じたところです。

○阿部一彦部会長

傳野委員のご指摘に関して、皆さんいかがでしょうか。

小岩委員、お願いします。

○小岩孝子委員

重点プロジェクトが8個あるというのは、そんなに多いとは感じなくて、分かりやすくなったなど。私は前回欠席したこともあっての感想なのですが、掛け算の表記の仕方についても分かりやすくなったと思います。せっかくこの11ページの前に環境や共生などを詳しく説明しているところがあるので、例えば「心の伴走プロジェクト」のところで「共生×学び」となっていたら、「なぜ共生？そして学びなのか？」、というふうに見ればいいわけです。学ぶ側、見る側からすると、ヒントを得るのに上に掛け算が書いてあると分かりやすい。「そうか、心の伴走プロジェクトには共生ということが大切で、そこに学びが加わるのか」とか。私もNPOとしてこういうものを見せられた時のやり方として、こういうふうに学んできたところがあるので、こうやって見て「ああ、そうか。ここのところを強調してこうやればいいんだな」と。さらに、実施の方向性のところに01、02、03とあ

るから、こういうことを重点的にやれば良いというのが分かりやすくなったと思いました。ただ、3つだと難しい。掛け算は2つのほうが、 2×4 が8になったほうが分かりやすいかな。

若い人たちや子どもが見ても、都市個性の掛け算は2つのほうが受け止めやすいのではないかと思って見ていました。

○阿部一彦部会長

そうするとここは意見が分かれるところでもあります。ただ、「2つだけではないのではないか」ということをこの11ページの図から読み取るというご意見ももつものに思いました。

ということで、何か困った時は阿部重樹委員で。すみません。

○阿部重樹委員

傳野委員がおっしゃったことと同じで、8つが多いか少ないかということに関しては、決めるよりないのではないかという気がします。どっちもあるだろうという意味で、どちらかに決めるよりなくて、どちらもありだろうと思うので。8つの事務局提案が来ていますから、取りあえず8つでやってはどうかと。根拠はありません。

それから、掛け算のところは、私が伺っている限りでは、各プロジェクトの脇にある2つを掛ける、それで「これは3つもあるのではないか」とか、それから「そもそもこれは11ページの図との関係でないほうが整合的ではないか」という意見があります。今、小岩委員から「戻って見るには分かりやすいのではないか」というお話もありました。ないほうが整合的かなと私は思いますが、これもどちらでもいい。

それから最後に、12ページの図と11ページの図の関連を考えた時に、つまりは「なんとか×(かける)なんとか」というように2つ掛けるという点ですが、そもそも11ページの図ではそうではなくて、3つ、4つと掛けているわけです。そうすると12ページというのは、かなり限定的な図の見せ方になっているので、これもないほうが整合的かなと思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。今までのご意見ではこの2つ掛けるのはないほうが分かりやすいという意見が多かったようにも思いますが、まずその点について皆さま、ご意見どうですか。

岩間委員、お願いします。

○岩間友希委員

私も同意見ですね。この2つは掛け合わせるということが分かれば良いと思うので、あえて表記する必要はないかもしれないと思います。

8つが多いか少ないかは、このリングは大きいか小さいか議論だと思うのですが、先ほど奥村議員がおっしゃっていた「8つは多くない？」という不安は、「本当にやるのか」

という不安につながるのだと思うのです。

であれば、今はまだ方向性を点検していくという実施のイメージのところが一番後ろのテキストでしかないので、8つと決めたなら決めたで「こういうふうやっていく」ということが分かるようにきちんと書けば不安を払拭することができるだろうと思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。そしてもう1つ、傳野委員から危機に強いというか、強靱なというか、そういう面はどうなのかというお話もありましたけども、これについて事務局からお願いします。

○梅内まちづくり政策局次長

傳野委員からありました新型コロナウイルスのお話も最近の一番ホットな話題ということで、ごもっとも思っております。

公共の一番基本的な役割として、安全・安心を守るということがありますので、そういったことについては当然重点として取り組まなければいけないと理解してございます。

例えば16ページのところに「防災環境都市」を入れております。これは基本的には前回の震災への対応ということを基本にしておりますけれども、さまざまな人災も含めて災害ということもございまして、あるいは24ページのライフデザインのところ、03「ライフステージに合わせた健康を支える」と書いてございます。これは今後の2025年問題等を踏まえた高齢化に対応するところを意識しております。この中に健康という観点も入るものと思います。安全・安心ということを重点プロジェクトのいずれかにしっかり入れて、市民の皆さまの安全・安心を守るべきだというご指摘については、私どもも重視してまいりたいと思います。書きぶりについては少し考えてまいりたいと思っております。

○阿部一彦部会長

ありがとうございました。傳野委員、よろしいでしょうか。大事なご指摘から発展したこと、ありがとうございます。

それでは先ほどの、それぞれの重点プロジェクトのところ、2つの都市個性を掛けている表記の仕方について、小岩委員からは分かりやすいとのご意見もあるけれども、大方の委員はそれを「11ページの図で読み取れるように」ということでした。よろしいですか。

○小岩孝子委員

皆様のご意見でいいと思います。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。そして「8つが多いか少ないか」ということもあるけれども、「この8つで分かりやすくなった」というご意見も多くいただきました。

それから佐藤和子委員からいただいたSDGsについて。これは17の取り組みすべてとい

うよりも、重点的なものを示しています。

そういう意味から、仙台市ではこれからの重点的な 17 のターゲットというものを、それぞれプロジェクトのところに表しているのだと思いますけれども、それも市民の方に知っていただくということ。SDGs はこれからいろいろな場面で大事になってくるし、佐藤和子委員のご指摘のように、2030 年までというのはこの総合計画と一緒にということもあります。

とても大事なご意見だと思いました。ではそのような方向も含めて、また意見を伺ってから事務局とやり取りをしたいと思います。

その他皆さんいかがでしょうか。12 から 28 ページまでの間です。

佐藤和子委員、お願いします。

○佐藤和子委員

18 ページの「01 多様性が尊重される環境をつくる」というところで、多文化、障害、多様な性のあり方などへの理解の促進とありますが、理解・促進だけではなくて、例えば障害者であれば、合理的配慮の提供をもっと推進していくとか、そういう文言もちょっと入れたらいいのではないかと思ったのです。

それから、2つ目のユニバーサルデザインのところなのですが、こういう文章にすると、どうしても建築とか、設計・デザインだけというか、ハード面の印象です。でもやはりそれだけではない。これも同じく、後ろのページにもあるのですが、日常生活や生活環境の整備という、これも合理的配慮になるのですが、そういうことも入れた方がいいのではないかと思いました。

それから、18 ページの 03 にいじめ防止等の対策が入っています。そして不登校が 22 ページの方に入っているのです。不登校の対策というか支援は、今まで学校復帰が中心でしたけれども、教育機会確保法という法律で、必ずしも学校復帰だけではなくて、社会的自立ということも支援していくということが国で示されて、仙台市もそれを認識していると思います。ですので、環境づくりとかだけではなくて、そういう社会的自立と学校復帰についての不登校の子どもさんに対しての支援ということも明確に入れたらいいのではないかと。

18 ページの 03 でいじめ、22 ページの 02 で不登校と分かれてしまっているのですが、一緒の方がいいのかと思ったり、こういうふうに分けたのはどういうことかと思ったりしまして。そこを確認も含めての意見でございます。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。まずは 18 ページ、合理的配慮という言葉をごどのように入れるかもありますけれども、お互いに配慮し、支え合う社会をつくっていくと。理解の促進に留まるのではなくて、もっと先のところも書いたほうがいいのではないかとということ。

それから、いじめ防止と不登校の問題が別々のところにあるのだけでも、これについては確認ということもありましたので、今までのところで事務局からお願いします。

○松田政策企画課長

まず 18 ページの「多様性が尊重される環境づくり」、環境をつくるだけではなくて、もっと深く合理的配慮の実施というようなどころまでという部分は検討させていただきたいと思います。

また、いじめ防止と不登校が分けて掲載されておりますけれども、これは子どもに関する施策だから全部子どものところに入れようというよりは、よりその関連性が深いプロジェクトのところに入れて、市役所で言えばいろいろな部局が1つになって、このプロジェクトを実施していきたいというところもあります。必ずしも施策の分野ごとにきっちりプロジェクトを分けるのではなくて、いろいろなところの所管が入り乱れて1つのプロジェクトをつくっていくという考えが根本にあります。

そういう観点で、22 ページの不登校の児童生徒のところは、前回か前々回で事務局の説明で不登校の防止というような表現をしたところ、「不登校は別にそのものが悪いわけではない」「さまざまな学びの場があるべきだ」というご意見をいただいたので、こちらの「個性に合わせた成長環境」の中に、さまざまな選択肢のある学びの環境づくりというところを、不登校対策の1つの大きな面と捉えて、置いたところでございます。

心を支えるというところの対策も、不登校対策の中でないわけではもちろんないのですが、不登校対策の第一義的には、学びの場の確保だろうと思いましたが、22 ページに置きました。一方で、いじめ対策は心を支える、命と心を守るというところで関連性の深い 18 ページに置いたというところが、事務局の考えでございしますが、置き場につきましては、またご意見を踏まえて考えてまいりたいと思います。

○阿部一彦部会長

事務局の説明、これまでの経緯について、佐藤和子委員、いかがでしょうか。

○佐藤和子委員

理解いたしました。ただ不登校と児童生徒の支援のところは、国としては学校復帰だけでなく、社会的自立も考えているのだということが分かっている方なら、「個々の人に合わせた選択肢のある学びの環境づくり」で理解するかもしれませんが、仙台市もやはり不登校の子どもさんたちが多いため、しっかり取り組んでいくという意味では、社会的自立という言葉、文言を入れてはどうかと思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。

それでは佐藤静委員、お願いします。

○佐藤静委員

私が関心を持って考えていたのは、「心の伴走プロジェクト」のところですが、こんなふうにとまとめていただいて大変ありがたいと思っています。

今、話題になってきた「心を支える環境をつくる」というところですが、これは

子どもに限ったわけではないので、「子どもたちが」というところはなくてもいいわけで、家庭、大人も子どもも含めた全体のことをここで言ったほうがいいような気がします。

例えば、いじめとの問題やハラスメントなども、やはり一緒に考えていかななくてはいけない生活環境の中での心の支えの課題かと思います。

もう1つ、少し気になっていたのは、この「心の伴走プロジェクト」だけでなく、このプロジェクトがずっと並んで8まで行って、その後29ページ以降に「分野別施策一覧」というのがまとまっているのですけれど、例として挙げると、18ページの03の「心を支える環境をつくる」というところの内容が出てこないのです。

この辺のアンバランスさというのはどういう訳なのかと思っていました。細かい具体的な施策が随分書き込まれているところがある反面、欠落している部分がありそうな気がしますので、この辺のことはどうなのかと少々懸念しておりました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。まず佐藤和子委員からは、社会的自立という文言を入れるのがもっと分かりやすく伝わるのではないかというご意見。それから、佐藤静委員からは「心を支える環境」というのは「子どもたちに限らないのではないのか」ということ、「ハラスメントということもあるわけだし」ということ、それから次の「分野別施策一覧」との関係についてのご意見が出ましたが、事務局から説明していただいていたいいですか。

「分野別施策一覧」については次に議論することにはなっていますが、その関連性について。

○松田政策企画課長

「重点プロジェクト」と「分野別施策一覧」の関係性については、まず分野別の施策一覧は、施策を網羅しているところなので、基本的にすべての施策、重点プロジェクトに関わる事業であっても、そうではない事業であっても、すべて分野別の施策一覧のどこかには、読み込まれるという前提でつくっているというところがございます。当然ながら漏れのないようにしなければいけませんし、重点にあるのに分野別でないというのは明らかに欠落ですので、そこは今後埋めていきたいと思っております。

例えば18ページの「心の伴走プロジェクト」の、「心を支える環境をつくる」の、いじめ防止対策の推進等については、少し分かりづらいのですけれども、35ページの「学び」の括りの1の(4)に、「子どもたちが安心して学べる環境整備」「いじめの防止対策等」が入ってくるというような形です。

現時点では、プロジェクトの事業がこの分野別のどこにあるのかということが、若干分かりづらくなっているところではありますが、いずれこの重点プロジェクトももう少し書き足していきますし、いずれより細かい実施計画をつくっていく時には、その辺も分かるように工夫をしていきたいと思っておりますが、基本、重点プロジェクトにある事業は、分野ごとの施策の中のどこかには必ず入るということで考えております。

○阿部一彦部会長

ではそのようなことで。「心の伴走プロジェクト」は子どもだけではないというご指摘もありましたが。

○松田政策企画課長

はい。

○阿部一彦部会長

そういうご指摘も踏まえて。

○松田政策企画課長

はい。そちらのご指摘は踏まえたいと思います。

○阿部一彦部会長

佐藤静委員、よろしいでしょうか。

○佐藤静委員

少し付け足すと、例えば今言った18ページの03のメンタルヘルス対策のあたりはやはり欠落している感じがあります。たぶん分野別施策一覧は、今ある事業などを取りまとめた感じで作られたのだと思うのですが、これから新たにつくらなくてはならない部分もあります。それはもしご要望があったらこちらからも提言できますので、そのような形で整理していただければと思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。ぜひ提言というのも大事なことだと思いますので、お願いします。

すみません。先に手を挙げていた阿部重樹委員、それから中坪委員ということでいいですか。

○阿部重樹委員

2つほど。1つが、佐藤和子委員の「社会的自立をどこかに入れられたほうがいいのではないか」ということです。応援をしたいと思います。

私も全く失念していたのですが、自立という言葉に関して、経済的自立、身辺のことを自分でできるかという日常生活自立、そして社会的自立、と今は三層で捉えていて、なおかつ社会的自立性への注目がすごく強まってきているのです。どういうところで強まってきているかというと、例えば18ページの02の「ひきこもり支援」。これはつながりの喪失ということをすごく重点に置いている考え方なのです。ですから、今とてもトピックスな、あるいは現代的な流れ、トレンドになっている考え方だし、用語ですから、佐藤和子委員も先ほどご提案されていましたが、ぜひどこかに使われたらいい用語だと思います。ソーシャルインクルージョンなどの関係になりますから、ぜひそういう意味で応援をした

と思います。これが1点目です。

2点目は、今までの議論と違ってまた事務的なことで申し訳ないのですが、項目ごとに現状でデータをいっぱい示していただいている中、ちょっと気になったのは、データによってわずかですけど、元資料の作成というか、出版された年限がないものがあるのです。いつ頃のデータなのだろうかと、やはりどうしても気になるのが2つ3つ見えたので、いつ出されたのかが分かるデータに変えられたほうがよろしいかなと思いました。

ついでに17ページの、左端に「地域における支え合いが必要なこと」とあるのですが、私のほうから後で事務局にご提案したいと思います。仙台市も昨年度あたりにこういうもう少し大きな括りの中で調査をやっている、令和元年などのデータが出てくるのではないかと思いましたので、それはご提案させていただきたいと思います。ここでも、「日頃からの住民同士のつながりが〜」が一番高い数値を示していますから、そういう意味でも社会的自立という言葉をどこかで使われたほうがよろしいかなと思いました。

少しごちゃごちゃしたことを申し上げましたけれども、よろしく願いいたします。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。社会的自立という言葉の意味と重要性と、データに関しては出典も明確にして、新しいデータがあるわけですから、阿部重樹委員に教えていただいてそれをあげるべきだと思います。

中坪委員、お願いします。

○中坪千代委員

今、阿部重樹委員がおっしゃっていたデータに関しては私も思っていたので、それもお伝えします。あと、佐藤静委員がおっしゃっていた部分で、私も18ページの03の文、すごく気になっていたのです。

17ページの「特に力をいれるべき施策」で1位が「学校におけるいじめ対策」ということで、市民が意見を出しているこのパーセンテージ、私として見ればかなり高く、それに対して03の「心を支える環境をつくる」の実施の方向性は、これから付け加えるのでしようけど、内容が薄すぎるのと、普通ではないかとの意見をもちました。

やはり佐藤静委員がおっしゃっているように、子どもたちだけではなくて、学校におけるいじめの未然防止や早期発見ということであれば、もう今は教職員のサポートから入らないといけないと思います。先生たちが一杯いっぱいの状況で、保護者の対応も含めてなかなか手が回らなかったり、実際現場では起きていることなので。やはり学校をどうやってケアしていくかというのも市がバックアップするべきこととして伝えなければいけないのではないかと考えております。

震災以降のここ数年間、仙台市内の中学校、小学校でのいろいろな事件を踏まえて、他県からの移住・転勤などで仙台に来る際に、事前に幼稚園、小学校の現状を皆さん確認します。教育委員会、私たちPTA協議会にも何回も連絡が来るのです。「どうなっているのだ」「うちの子どもを行かせても大丈夫か」と。

仙台に住むとなると「学校が心配」「環境が心配」「地震が心配」。やはりこれを少しで

も緩和するような表現を取っていかないと、読み手としては前向きな気持ちになりにくいと思ったので、ぜひ文章を頑張っていたいただければと思います。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。その他委員の皆さま、いかがでしょうか。
佐々木委員、お願いします。

○佐々木綾子委員

先ほど佐藤静委員がおっしゃってくださった、この分野は子どもだけではないのではないかというお話、本当に「あ、そうだな」と気づかされたのですけれども、そのご意見にはとても賛同いたします。

その前にちょっと、私が子どもということを前提に考えてしまったところもあるのですが、その部分での意見を申し上げます。03の「子どもたちが安心して育つ環境づくり」にプラスして「支援」と入れてほしいと思っております。環境づくりはもう本当に根本的に必要なのですけれども、いじめや児童虐待が今実際に起きているところがありますので、そこに積極的に支援に入らなくてはいけないということは、現場を持っている私も感じているところでございます。

なかなか「児童相談所にまで行かないのだけれども」というお子さんたち、ご家庭でもそういう方々がたくさんおりますので、そういったセーフティネットから漏れてしまうご家庭やお子さんを積極的に支援していくことというのは本当に必要なことだと思っております。

また、同じ部分で、「貧困家庭の子どもの居場所づくり」とあるのですけれども、今は貧困だけではなくて、本当にさまざまな困難を抱える家庭がいらっしゃいますので、貧困家庭だけにフォーカスするのではなく、さまざまな困難を抱える家庭も含めて、漏れなく支援していくべきだと感じております。

例えば精神的に不安定なご両親の中で、1人で過ごしているお子さんなど、そういったこともありますので、そういった文言も入れていただけるとありがたいと思っておりました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。委員の皆さまからいろいろ意見をいただきまして、今までのところで事務局から確認することも含めて、コメントも含めてですけれどもお願いしたいと思っております。いかがですか、事務局。

○松田政策企画課長

まずプロジェクトの中の実施の方向性についてはまだまだ書き足りないところがある。先ほどこれにさらに肉付けをしていくというところはお話しましたが、それでも项目的にもまだ足りないところがあるというところで、いくつか〇〇な環境づくりというところについては、環境をつくるだけではなくて、さらにその先の支援だったり、配慮だったり

いうところのご指摘をいくつか受けたと認識しておりますので、そちらの方は改めて検討させていただきたいと思います。

それから佐藤静委員からの「分野ごとの施策が、まだまだ今の取り組みに収まっていて、プロジェクトを十分に反映していないのではないか」というところにつきましては、改めてそういった目で確認をし、それぞれの担当部局と調整をしていながら整合性をなるべく図っていくように、今後そのような方向で資料をつくっていきたいと思います。

○阿部一彦部会長

奥村委員、お願いします。

○奥村誠委員

すみません、私はまた全般的な立場で申し上げてしまうのですが、たぶん「これは大事だ」「そこをもっと書き込め」という話になったら、今までと全く同じことになってしまうと思うのです。

大事なことは分かっているのですが、あえて逆に言うと、今までこれが大事だと思っていたところに、ほかの力を持っている方や、ほかの視点の方が組み合わさっていただくことによって、今までできなかった解決の仕方が新たに見つかるというところを大事にしたいのです。

もっと言えば、先ほどのプロジェクトが多すぎるのではないかとということと、後ろの分野別施策一覧の関係なのですが、日本の自治体には、日本全国的に絶対やらなければいけない国の仕事があって、それを機関事務的に国の手先としてやらないといけないという、法律で決まっています。必ずやるような仕事というのはいっぱいあるわけです。仙台市も自治体ですから、それはわざわざ総合計画に書かなくてもやるのです。

だからそういうことを総合計画に書くのではなくて、これから先を見据えて、「まだやられてないけども重点を置きたい」「これからもっと伸ばしていく」あるいは「新しい取り組みだ」というところをプロジェクトにするべきなのであって、その意味で8つのプロジェクトは多いのではないかとというのが意見です。

先ほどの話で「これとこれが別々になってしまっている」という意見が出ていましたが、たぶんこのプロジェクトを2つに分けるべきではないのではないかとこの見方もできるのです。本当は一体的に進めなければいけないものを2つのプロジェクトに分けてしまったから分かれているように見える。

しかしここで本当に今回やりたいことは、スポットライトをいろいろなところに当てることではなくて、「ここも大事ですよ」「ここにも光を当ててください」と言い出すと足りない。「当たるところはここです」と言って、そこに力を集めて発揮してもらうこと。例えば今の話で言うと、ソーシャルインクルージョンに役立つために、企業のほうが、あるいは労働のところで抱えている問題も一緒に入ることによって解決する問題があるかもしれない。

あるいは例えば、ソーシャルで、ちょっと福祉と違いますけど、外国の方が困っていることがあった時に IT の技術を持っている会社の方が入って行って、自分のところの技術

を発揮することによって両方が助かるような、そういう解決の仕方を新しく見つけていきたいのです。

だからそういう意味で言うと、「このところが大事だから」とか「このところは今までのやつが足りないから」というふうに個別に書いてしまうと、そういうことが入りにくくなる。

私は、プロジェクトはあまり多くない方がいいし、あまり詳しいことをそこに書く必要もない。そこに書かなくても絶対やらなければいけないことは、後ろの施策としてやられるはずなので。だからむしろ「これからこういうことが大事だと感じているので、一緒に集まってやりませんか」というメッセージだと思っているのです。

ということで、たぶん先ほどの回答からすると、事務局的には「考えて書き込みます」とおっしゃるのだけでも、私は書き込んでいけばいくほど、プロジェクトが今やっていることの羅列集から超えられなくなるのではないかという心配をしています。

覆したことを言ったかも分かりませんが、私の気持ちはそういう感じです。みなさんのご意見が大事なことなのは良く分かっていますけれども。

○阿部一彦部会長

ありがとうございました。総合計画の重点プロジェクトは、これから多くの市民、さまざまな関係機関と一緒にやっていくことを明確にするということで大きな力が発揮できるのではないかというような意見で、細かくというよりも、方向をしっかりと示して協働していく、掲げるものというイメージも大事ではないかということだと伺いました。よろしいでしょうか。そのような方向から考える必要があるのではないかと。今日8時を目安にしている、今の時点でそこまで解決できるかは分かりませんが。

今野彩子委員、お願いします。

○今野彩子委員

視点が少し重なるところがあるのですが、さっき事務局のご説明をいただいて、重点プロジェクトの実施の方向性と、後ろの分野別の関係性は分かりました。

ただ、分野別が全体を網羅していて、その中に実施の方向性が落ちるということに少し違和感があります。この場の議論の中で掛け合わせが重要だという話が出ているのにもかかわらず、最終的には環境や共生、学び、活力のどこかのカテゴリーに落とし込まれてしまうということへの違和感です。

やるほうも、どうしても分野別施策に落ちた状態で「ここをやる」となると、やはりその分野、例えば環境の枠組みを出ないでしようし、プロジェクトの実施の方向性をそのまま施策に落とし込むようなことができないのではないかと思います。掛け合わせを意識した状態でみんなが取り込めるという形をこの計画の中に書き込めないのかと思いました。できる、できないはあると思いますが。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。

佐々木委員、お願いします。

○佐々木綾子委員

先ほど奥村委員がお話ししてくださったことを聞くと、何度もそういうお話をされていたような。どうしても今までの考えにとらわれやすいといえますか、そこに引っ張られる自分がいるということを改めて感じました。

我々委員の間でも、それぞれこの分野にもっとスポットを当ててほしいという気持ちが個々に出てくる中で、市民の方が見たら、「これ、書いてないからどうなのか」「思われていないのかな」と、そんなふうになってしまうのではないかと。ですから奥村委員が先ほどおっしゃってくださったことを、「最初に、こういう課題と課題を掛け合わせながらも新たな社会づくりをしていく」「前向きなトライをしていく」といったことを前置きを書くことで、この先を読む気持ちが変わるといえるか、意識が変わってくるのではないかと思います。それがいい中で、今までの頭で読んでしまうと、「スポットライトがここに当たっていない」と思ってしまう。委員の中でも、私自身も思ってしまうところがあるので、最初に何かそういう「これから新しいものをつくっていく」という文言があると、分かりやすいといえるか、そういう目線でこれを読み進めていけるのではないかと思います。

○阿部一彦部会長

大事なご意見。

佐藤静委員、お願いします。

○佐藤静委員

私も今、佐々木委員がおっしゃってくださったことに賛成です。やはりそういう理念、私も奥村委員がおっしゃることは大賛成なので、これから事業をつくっていくといえるか、創造していくといえるところを最初に打ち出させていただくとありがたいなと思っていました。

「プロジェクトは6つだけなのですか」ということを私は前にも言ったかもしれませんが。クローズドな感じがするところがあるので。それは8つでも同じだと思いますので、その辺の「クリエイティブなものなのだ」といえるところをぜひ奥村委員に主張していただきたいと期待をしています。

○奥村誠委員

分かりました。たぶん12ページの重点プロジェクトの最初の部分がダイレクトに前の章とつながっているために、この4つの目的を達成するには「これさえすればいいんだ」といえる印象を与えているのです。

本当は、このⅡの「新しい杜の都をつくる」といえるところと、次の重点プロジェクトのところは、こういう方向で進めていきたいのだけど、実は何をしたらいいか、いろいろ時代が変わっていく時代だからそんなに簡単に分かるわけではなくて、でもまずはこういうことや、こういうことでやってみようではないか。これに集まれる人は集まって、踏み出

すことが大事ですよ、それとしてまずはこんなものを考えてみましたというのがこの重点プロジェクトであって、これだけをやったら必ず新しい杜の都ができるという話でもないし、ここ以外はもうやらなくてもいいという話でもないということが全然伝わってないのです。

だから、この重点プロジェクトに入る前のところに一体この重点プロジェクトというのは、「どういふつものものなのか」ということと文章がもう少し必要ということですね。分かりました。相談して何とかします。

○阿部一彦部会長

ぜひよろしく願いいたします。言ってみれば、この施策は「仙台市やってください」というのではなくて、市民の皆さんとともに、もちろん市も関わるのだけでも、「やっていきましょう」ということを明確に出して、施策の一覧的なところでは「やるべきものはこうやっていくのだけれども、自分たちがつくっていくものということとを明確にする」という方向性、「それがとても大事だ」ということを、奥村委員の話で皆さんと確認したということによろしいですか。

遠藤智栄部会長代行、お願いします。

○遠藤智栄部会長代行

奥村委員が今おっしゃっていただいたことに私も賛成なのですけれども、私も総合計画の議事録や資料を読んだ何人かの方からご意見をいただいた機会があつて、ちょっと誤解されているのです。重点プロジェクトというのは、何か大きな予算がつくようなプロジェクトのイメージがあつて、そして今までやってきて継続しなくてはいけない大事なもののものがまだまだ分野別施策一覧にも漏れ抜けていて、でもちゃんと総合計画にならないと継続すべき重要な事業がやれなくなるのではないかと。そういう不安はいくつか聞いていますので、やはり重点プロジェクトの意味の説明文章がもう少し欲しいということ。

また、分野別施策一覧ですとか、施策の方向性というところも、徐々に充実させていって、議事録や資料をネット上で見ていただいている方にも安心感というのでしょうか、メリハリが付いたやり方だというのが分かっていただけのようなものにしていけるといいと思いました。

○阿部一彦部会長

小岩委員、お願いします。

○小岩孝子委員

奥村委員のおっしゃっていることを実現していく総合計画だとしたら、この重点プロジェクト8つは確かに多すぎるのかなと思いました。

遠藤智栄部会長代行がおっしゃったことから、実際にこれを「やるのだ」と思っている私みたいなNPOとかそういう人から見ると、8つになっているほうが分かりやすいのです。でも方向性からすると、違うものとして10年後を見ているとしたら、「多すぎるかな」「実

現できないかな」というような感じがしました。

○阿部一彦部会長

中坪委員、お願いします。

○中坪千代委員

勉強不足だったらすみません。この 29 ページ、30 ページの一覧は、ここになければいけないのですか。この一覧をプロジェクトの冒頭に持っていくことで、私としては、この内容が分かりやすく入りやすいなと今一瞬思っています。

○阿部一彦部会長

確認ですけど、この分野別施策一覧をもっと前の方にとということですね。

○中坪千代委員

そうですね。これを最初に見ることによって、体系が最初に入って来たので。

○阿部一彦部会長

今のご意見について皆さんいかがでしょうか。先ほどの奥村委員の話では、分野別施策というのは、これは市がやっていくことなのであって、重点プロジェクトは今の現時点での不十分なものを、もちろん行政も関わるかもしれないけども、さまざまな分野の方々の協力でやっていくというようなことで、また、それが分かるような書き方を事務局と奥村会長とでつくっていただくということでした。

さて、今の中坪委員の話で、この分野別施策を前の方に置くということに関しては、どうでしょうか。

佐藤静委員、お願いします。

○佐藤静委員

「分野別施策一覧」というのは、この計画の資料の中から削ってしまったほうがすっきりするかもしれないという気はします。

もし付けるとしたら、現実の仙台市の事業では「どういうことをやっているのですか」という参考資料のようなことであれば意味はあるかなと思います。

あと、このプロジェクトはある程度示しておかないと、具体的なイメージが湧かない感じがします。例えば、それぞれのプロジェクトの 01、02、03 とかこういう部分は、示していただいたほうが私としては分かりやすい感じがします。「これは1つの手がかりですよ」「視点の1つですよ」のような位置づけで示していただいたほうがイメージしやすいという感想を持っています。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。

事務局、お願いします。

○梅内まちづくり政策局次長

今、構成に関わる部分で多く意見をいただきました。先ほど来、「足りないのだな」というふうに実感したのは、例えばⅡ章とⅢ章をつなぐところにブリッジのページが必要だというような話が会長からもありました。また、中坪委員、その他の委員からもありましたが、同じようにⅣとⅤの関係性というのもページがないので分かりにくい状態になっているのかと思います。

こういった形で示すのがいいかというのはありますが、章ごとの関係性であるとか、どういう思いを込めているかというようなことについても、事務局の方で少し整理し、章のつながりの部分に書き込んでまいりたいと思います。

会長・両部会長ともご相談させていただき、次の時にどのぐらいのものが出せるかというのがありますけども、また皆さんにご提示させていただきます。

○阿部一彦部会長

では皆さんの意見を踏まえて、事務局で次に提示していただくという方向でよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、「まちと活力部会」の1、2、7、8について今あれば承りたいと思いますけど、いかがでしょうか。

この「まちと活力部会」で話題になっていることも、先ほど事務局に説明していただいた中に入っているということですね。

○松田政策企画課長

大きなところは先ほどご説明したところですが。昨日の部会でもさまざまなご意見が出ましたが、表現の問題というところが多かったので、今日この場では共有はございません。大きなところはご説明した通りです。

○阿部一彦部会長

阿部重樹委員、お願いします。

○阿部重樹委員

私も不確かなので、後でも結構ですから教えてください。23ページのところの「ライフデザインプロジェクト」の現状のところは4つの資料が出ています。左上の「生涯学習の実施状況」というキャプションが付いているのですが、このキャプションはそもそもの出典がこうだったのでしょうか。要するに生涯学習に取り組んだかどうかということです。これを実施状況というのかどうか、ちょっと違和感を持ったということです。これは1点だけです。

それから少しだけ戻りますが、現状の資料のことばかりで申し訳ないのですが、言い忘れたので。19ページの「若者の視点を取り入れる仕組み」というキャプションのところ

すけど、「この写真がとても良かったな」と、どうしても一言言っておきたかった。

グラフがほとんどと、あとは地図1点で、ここだけは下の説明を聞かなくても、この写真で「若者の視点を取り入れる仕組み」がものすごく鮮烈に目に入ってきたので「良かったな」ということを先ほど言い忘れたので、お伝えしたかったです。

○阿部一彦部会長

大事なご指摘ありがとうございました。その他いかがでしょうか。予定の時間になってしまったけども、申し訳ありません。皆さん大事なポイントは示していただきたいと思うのですけれども、ありますでしょうか。

委員の皆さまからのご指摘がありました。奥村会長へ全体のところについてまた確認の上、それで委員の皆さまのご同意を得て、それを踏まえて新たに書き直すというか、内容を充実させるという方向性が確認できたということだと思います。

それから今日は「分野別施策一覧」については、その内容を伝えるものを明確に示していただいてからということだと思います。

後は「V 区別計画」、それから「VI 総合計画の着実な推進」、「VII 資料編」について、これは時間が短いし、最初から予定していた時間もあまりないのですけれども、何か今ありましたらいただければと思います。いかがでしょうか。

では次の機会にそのこのところも見ていただけるようにということでもよろしいでしょうか。

予定の時間がもう過ぎてしまいました。今日の審議に関しては、これまででよろしいでしょうか。では審議はここまでとしたいと思います。

(3) その他

○阿部一彦部会長

最後に「その他」です。「その他」については、まず皆さんから何かありますでしょうか。

では事務局からお願いします。

○松田政策企画課長

最後に「その他」ということで、事務局からお願いがございます。来年度はいよいよ総合計画策定の最終年度というところがございます。これまでも市民参画事業や、新聞や市政だよりもさまざま掲載したりというところで、市民広報をしてきたところですが、来年度は一層力を入れていきたいと思っているところでございます。

来年度は毎月各家庭に配布させていただいております市政だよりを活用しまして、審議会の方々のご協力もいただきながら、総合計画の記事を書いていきたいと考えております。

そのようなことで、審議会の委員の皆さま全員ではなく、そのトピックスに関連のある方ということにはなりますけれども、何人かの方々に取材等をさせていただきたいと考えております。

後ほど市政だよりを所管している広報課という部局と相談しまして、ぜひ取材をさせて

いただきたいという方については、個別にご連絡をさせていただきたいと思います。

大変お忙しいところとは存じますが、市民の皆さまに審議会、そして総合計画をさらに周知していきたいと思っておりますので、その際にご協力を賜りたいと考えております。よろしくお願ひしたいと思ひます。

○阿部一彦部会長

事務局から「その他」ということで説明がありましたけども、この件について皆さまから確認や質問などはありますでしょうか。

「皆さんよろしくお願ひします」ということでもあったと思ひます。

では本日の議事はこれで終了させていただきます。

3 閉会

○阿部一彦部会長

最後に事務局から連絡事項をお願ひします。

○松田政策企画課長

大変お疲れ様でございました。最後に連絡事項があります。

1点は次回の審議会の日程です。お手元の座席表の裏面に今後の日程について記載しております。

当初の予定では年度内は3回の部会ということでございましたが、さらに審議を深める必要があろうということで会長・部会長とも相談させていただき、両部会ともにもう1回追加で第4回を開催することとしております。次回の第4回「地域とくらし部会」は3月25日水曜日の18時から開催したいと考えております。ちなみにもう1つの「まちと活力部会」は2日前の3月23日月曜日開催となります。場所は今日とは異なりまして、これまでと同じ市役所本庁舎の2階にあります第3委員会室で行わせていただきたいと思います。

また、本日のお帰りの際ですけれども、正面玄関が施錠されておりますので、西口の夜間出入口をご利用いただくこととなります。職員が誘導いたしますので、よろしくお願ひします。

そしてさらにもう1点ですが、昨日の部会で竹川委員から2月26日に行いますソーシャルイノベーションの起業家の方々に関するイベントについて、チラシの配布等がありましたので、共有させていただきたいと思ひます。

チラシのほう、今お配りさせていただいたところでございます。こちらについての説明は特にございませぬ。事務局からの連絡事項は以上でございます。

○阿部一彦部会長

これで本日の審議会、終了します。ありがとうございました。